

令和6年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

A：よい B：おおむねよい C：やや不十分（検討を要する） D：不十分（改善を要する）

評価領域	取組状況	評価
1：教育・保育目標について （7観点評価）	<p>新たな保育教諭を7名迎えたが、夏休みまでを前期、冬休みまでを後期として年2回、自己評価と結果に対する協議を行ってきたことにより、共通理解が進んだ。「目指す子どもの姿と課題を具体化しながら教育・保育に取り組んできた」項目に80%の職員がAと回答している。</p> <p>昨年度と比較すると7観点平均が0.1ポイント上がり、3.7（4段階）ポイントとなった。</p>	A
2：教育週数と時間、行事について （6観点評価）	<p>教育週数40週以上を確保し、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」、「教育・保育課程」に計画していた教育・保育内容を全て実施することができた。また、行事の実施時期や内容等を見直して実施方法を工夫してきたことにより、園内外の行事や保護者参観を全て実施することができた。保護者アンケートの結果からも行事等が充実してきていると言えるが、保育者の仕事の効率化や精選を図っていかなければならない。（昨年度比で平均+0.2ポイント）</p>	A
3：学年・学級経営について （12観点評価）	<p>きめ細かい健康観察には96%、あいさつや笑顔での保育については88%の職員がA評価とした。園児数と職員数が増えたことを考慮し、引き続き情報交換の時間をしっかりと確保することなどにより、子どもの内面や行動の背景にある要因の理解や、特別な配慮を要する子どもの「指導計画」や「支援計画」の手立てをより具体化していく必要がある。今後もチームによる少人数教育・保育の充実を図っていききたい。（昨年度比で平均+0.2ポイント）</p>	A
4：教育・保育の在り方と保育記録について （10観点評価）	<p>10観点中、6観点は肯定的評価が100%であった。「園児が自ら活動を生み出していけるような工夫」については、C評価が8%あったがA評価が48%（前期比+24%）となり、合言葉「笑顔でチャチャチャ」を意識して取り組んでいる職員が増えてきていると言える。今後も、子どもたちが自己効力感を味わいながら、自己肯定感を高めていく教育・保育の実践に取り組んでいく必要がある。</p> <p>異年齢交流については、肯定的評価が96%であったが、満3歳・3歳未満児と3歳以上児との交流を意識した計画の見直しと実践の充実を図っていく必要がある。（昨年度比で平均+0.2ポイント）</p>	B°
5：組織・運営について （7観点評価）	<p>0歳児からの保育がスタートしたことから、3歳以上児の教育・保育についてもていねいに見直しを図ってきたことにより、全職員が園の運営にかかわり、教育・保育の質の向上につながった。引き続き各種会議の適切かつ効率的な開催に努めるとともに、経験年数の異なる教職員が相互に助言し合いながら知恵を出し合い、教育・保育の質の向上に取り組んでいく必要がある。（昨年度比で平均+0.2ポイント）</p>	B°

評価領域	取組状況	評価
6：保健・安全指導と安全管理について (9観点評価)	<p>今年度も9観点すべてが100%の肯定的評価であった。コロナ禍で経験した手洗いや手指消毒、必要に応じたマスクの着用等の保健指導や常時換気などの感染予防対策により、インフルエンザなどの感染症の感染拡大を防ぐことができた。</p> <p>ヒヤリハット記入簿による情報共有や様々な状況を想定しての避難訓練や臨港署に協力要請しての不審者対応訓練、エピペンやAEDの研修が効果的であったという意見が出された。今年度は、熊の出没が相次いだが、園バスへの乗降時の安全対策などを速やかに実施することができた。(昨年度比で平均±0ポイント)</p>	A
7：園内外の研究・研修について (6観点評価)	<p>6観点すべてが100%の肯定的評価であった。研修3箇条「うなずきの気持ち」「言っているんだ」「間違いはない」により、活気ある話し合いを通して、教師間の親密度を高めて同僚性を育む園内研修とすることができた。初任者や新規採用者により、若い保育者が増えたが、経験年数の少ない保育者の課題や疑問に応える様々な研修を積み重ねることができた。(昨年度比で平均+0.1ポイント)</p>	A
8：幼保小との連携について (4観点評価)	<p>土崎小学校と土崎南小学校の統合が2年後となったことを契機に、両校と近隣園による幼保小連携として、子どもや職員の交流を図っていくことを計画・実施した。これにより、小学校の職員と交流する機会は増えたが、幼保職員が交流する機会を増やすには至らなかった。</p> <p>小学校の体験入学をはじめ行事見学などの子どもが交流する機会や、教員間の情報交換の機会も増えてきている。(昨年度比で平均+0.2ポイント)</p>	B
9：家庭・地域社会との連携について (7観点評価)	<p>保護者への「利用者アンケート」では、7項目において100%の肯定的評価であった。また、10項目において「とてもそう思う」が3～11%増え、「入園して満足している」「誠実な対応をしている」という項目については、いずれも90%の保護者が「とてもそう思う」と回答した。また、60名の方からは温かい応援メッセージをいただき、12件の意見には園の考えを伝えることができた。このことは保育者が笑顔で日々の連携を積み重ねてきたことによるものである。</p> <p>市教育研究所や中央教育事務所、療育センターなどの専門機関との連携を図ってきたことにより、特別な配慮を要する子どもへの支援を充実させることができた。</p> <p>子育て支援として行っている園開放では、満3歳・3歳未満児保育を開始したことから利用者が増えたが、温かく落ち着いた雰囲気の中で交流ができた。</p> <p>今年度、地域の方からご寄付いただいた曳山で町内巡行を行ったことにより、子どもたちは地域文化に親しむとともに、地域の方々から支えられていることを実感し、地域を大切に思う心を育てる経験をすることができた。引き続き、地域の人たちと交流する園外活動を行い、地域の方々にも共に子どもを育てていくという意識を醸成していきたい。(昨年度比で平均+0.2ポイント)</p>	A